

部 局 課 室 名	企画県民部 地域創生局 地域遺産課	記 入 者 職 氏 名	地域遺産課長 飯塚知香子 〔地域遺産班長 中井 佳奈子〕
--------------	----------------------	----------------	---------------------------------

1 事業の概要

事業名	兵庫津ミュージアム (仮称) 整備事業	総事業費 (概算)	約25億円
		31年度当初 予算計上額	196百万円 (建築設計費、展示設計費等)

整備 候補地	神戸市兵庫区中之島2丁目 (神戸中央卸売市場跡地Ⅱ期南東側)
事業目的	<p>1 事業の背景</p> <p>(1) 地域創生の基点としてのふるさとへの誇り</p> <p>有形無形の歴史資源は、地域のアイデンティティの源泉であり、歴史を知り、学ぶことで多くの人をその土地に惹きつけ地域の活性化につなげる地域創生の基点といえる。若者人口の流出拡大が続く本県では、平成27年10月に策定した兵庫県地域創生戦略に基づく取組を進めているが、その中でも、地域資源を活かしたツーリズムの展開、若年層を中心とした県民のふるさと意識の醸成を重要課題として位置づけている。</p> <p>現在、本県には県の歴史を伝えるための施設として、歴史博物館、考古博物館があり、前者は歴史資料を扱って、姫路城ほか城郭の展示、祭りや仏像、妖怪など生活・文化史に重点をおいた展示 (神戸・阪神地域の展示はほとんどない)、後者は、考古資料 (出土品) を扱って、原始・古代の遺跡の視点にたった空間型展示を行っている。一方で、①古代から国際的な重要地であった兵庫の特性、②他に類を見ない多様性を有する県として成立した特異性とそれを構成する五国の魅力、③日本の近代化を牽引した兵庫人の進取の精神、底力を体系的に学び、また能動的に体感できる施設は存在しない。</p> <p>兵庫県政150周年を契機とし、1,300件以上が展開された県民連携事業に見られるように県民がふるさとを見直し、その魅力を次代に引き継ごうという機運が盛り上がる中、改めて兵庫県の始まり、兵庫県が辿ってきた歴史について、多くの県民が自らに繋がることとして実感できる施設が求められている。</p> <p style="text-align: right;">【参考資料 P 1 (兵庫県地域創生戦略(2015-2019)の概要)】 【参考資料 P 3 県地域創生戦略施策体系(社会増対策部分抜粋)】</p> <p>(2) 歴史資源としての兵庫津のポテンシャル</p> <p>明治新政府の外交窓口として全国に先駆け設置された本県は、当初は兵庫津地域と内陸部の旧幕府領を管理する小さな県であったが、開港場の重要性を鑑み、周辺の県を併合し、現在の広大な面積を有する多様性のある県となった。</p> <p>兵庫津は、『多様性を特色とする本県の始まりの地』である。現在、この地において、初代県庁の復元施設を整備し、兵庫県の成立を学び、ふるさとを認識する場づくりの取組を進めている。</p> <p>また、兵庫津には、年の長きにわたり海陸交通の要衝であった歴史の蓄積がある。街にはこの地で活躍した行基や平清盛、伊藤博文、高田屋嘉兵衛などに関わる様々な歴史資源が重層的に残る。これらの歴史資源に光を当てつつ、先人の活躍や街の変容を学び、体感できる場を創出し、県内外から訪れる人に歴史ツーリズムの楽しさを伝えることができる歴史資源としてのポテンシャルがある。</p> <p style="text-align: right;">【参考資料 P 5 兵庫県の成立ち】 【参考資料 P 6 初代県庁復元施設の整備について】 【参考資料 P 8 兵庫津の歴史について】</p>

〔県庁発祥の地周辺〕



(3) 地域住民の取組みと要望

現在、兵庫津では、兵庫県発祥の地であるという誇りを持ち、地域の歴史に関心を持つ地域住民が中心となり、街歩きガイドツアーなどの取組みを行っている。兵庫津は、歴史資源としての高いポテンシャルを持つが、現在の町並みを単純に見てもその面影を辿ることが難しいため、ツーリズムなどを進める上で、「説明」や「発信」の重要性が高い。こうした中地域住民代表者や活動に取り組む多くの住民から、①兵庫津の歴史的意義を現地訪問との組み合わせで分かりやすく発信する施設、②町並みのシンボルともなり、地域内外の多くの人々が交流できる施設の整備の要望を受けている。

2 事業の目的

歴史を知ることから生まれる地域への誇りや愛着を、将来の兵庫づくりを担う人材育成やツーリズムの振興に活かすことを目的に、歴史資源としての兵庫津のポテンシャルの高さを活かした歴史ミュージアム「兵庫津ミュージアム（仮称）」を整備する。当該施設を初代県庁復元施設に隣接整備することにより、兵庫津の魅力発見をきっかけにしながら、ひょうご五国の歴史・産業・文化を学び、体感・体験する場を創出し、小中学生をはじめ県民のふるさと意識のさらなる醸成を図るとともに、県内への観光客誘致や交流人口の増加を図る。

(1) 幅広い世代の県民のふるさと意識、ふるさとへの誇りの醸成

国際的な視野で兵庫津を築いた先人の先駆性や受け継がれてきた地域の魅力を若い世代をはじめ幅広い世代の県民が知ること、ふるさと兵庫への誇りや兵庫の地で人生を切り拓いていこうという定住意欲の醸成を図る。

(2) 地域の個性を活かしたツーリズム促進

兵庫津は昔の町並みをそのままの姿では残さないが、様々な時代の歴史的資源が存在する地域である。近年、ツーリズムの形態が、単なる観光名所の訪問から、街歩きなど、そこにしかない地域の個性を体感する方向に変化する中、整備するミュージアムを、学び、体験、街歩きの中核施設として、点在する歴史資源と有機的に連環させることで、歴史ファンをはじめ様々な世代の観光客を誘致する。また、ひょうご五国の歴史・産業・文化をバーチャル映像なども活用しながら紹介し、県内各地への交流人口の拡大に資する。

1 兵庫津ミュージアム（仮称）整備事業の基本的な考え方

(1) 整備方針

- ① 歴史資源としての兵庫津のポテンシャルの高さを活かし、歴史ミュージアム機能を持った県のPR施設として整備
- ② 兵庫津や北前船、平清盛や高田屋嘉兵衛などの歴史的人物、産業遺産など、来館者の多様な興味関心に対応した機能を持つ施設として整備
- ③ 兵庫津で活動する地域団体、イオンモールや周辺企業、県内博物館・大学等と連携して事業を行う施設として整備
- ④ 隣接する初代県庁復元施設の展示機能を補完し、県民のふるさと意識の醸成にも寄与する施設として整備

(2) 整備候補地

神戸市兵庫区中之島2丁目（神戸中央卸売市場本場跡地Ⅱ期東側）



※国土地理院の地形図を使用

[選定理由]

- ・千年もの間湊町であり続け、古代からの重層的な歴史を持つ、魅力ある地域である。
- ・兵庫県の始まりの地である初代県庁が設置された場所に近く、兵庫県の歴史や文化を知る、学ぶ場所として適地である。
- ・市営地下鉄や市営バスの停留所から近く、交通の利便性が高い。

2 施設の事業活動

事業活動種別	概要
ガイドンス事業	兵庫津をはじめ兵庫県内各地の地域資源へ来館者を誘う ・スタッフ、ガイドによる語りと映像の組み合わせ ・兵庫津と兵庫県の持つ魅力、周辺資源と施設事業のポイントを伝える [兵庫津：千年続いた港、大河ドラマにも取り上げられた歴史上の人物] [兵庫県：旧五国から成立した兵庫の多様性、新政府の初の外交の場]
展示・情報発信事業	兵庫津や兵庫県の歴史文化を伝え興味関心を引き出す ・多様な来館者の様々なニーズに答える展示内容・展示手法の検討 ・可変性、更新性のある展示（自主企画展、持込企画展の実施を含む） ・ひょうご五国の魅力の情報発信（五国への旅情報ほか）
体験・学習事業	兵庫津や兵庫県の身近に感じるきっかけづくり ・兵庫県の地場産業、伝統芸能体験機会の提供 ・小学4年生の社会科学習の場として活用 ・年表、地図・古地図、書籍など、より深い学びを支援する資料設置 ・講演会、講座等の開催、生涯学習事業との連携
管理運営事業	・展示及び情報発信の内容更新等のための情報収集・発信ネットワーク ・体験プログラム提供のための県内各地の団体等とのネットワーク ・兵庫津の歴史文化資源のセンター的機能を担うためのネットワーク

3 展示計画（案）

(1) 展示の基本

- ア 来館者が兵庫津や兵庫県の歴史・文化・産業等をわかりやすく学べる展示
- イ ハンズオン展示や映像など、五感で当時の生活、文化等を体感できる展示
- ウ ストーリー化した展示物の活用等により、親しみやすく興味関心を引き出す展示

(2) 展示テーマと内容

- ア 近代日本の始まりの舞台『兵庫県』
江戸から明治への移行時期の日本における兵庫県の重要性と成立を伝える展示
 - ・近代国家の外交窓口 兵庫（開港場として選定された兵庫の当時の賑わいの様子）
 - ・兵庫県の誕生（勤番所から兵庫県庁へ、初代県知事伊藤博文の近代化施策）
 - ・近代の扉を開いた人々のドラマ（新政府初の外国との交渉「神戸事件」）
 - ・五国の明治維新（丹波、但馬、播磨、淡路それぞれの明治維新）
 - ・文明開化によって変化する五国（鉱山の近代化、鉄道史、阪神モダニズム）
 - ・兵庫と神戸（幕末から明治期）
- イ 兵庫県の始まり、要の地『兵庫津』
千年の間、海陸の要衝の地であった兵庫津の独自性と県の始まりとなった背景を伝える展示
 - ・千年続く湊町 兵庫津
 - ・兵庫津の人々
（行基、清盛、重源、池田恒興、北風荘右衛門、工楽松右衛門、高田屋嘉兵衛他）
 - ・兵庫津地域の土地開発史
（平清盛による大輪田泊改築・経ヶ島造成、湊川の付替工事、兵庫運河の整備）
 - ・海外、五国との交流史
 - ・近代産業化（鉄道（新幹線）、飛行機、潜水艦）
- ウ 世界、日本の中の兵庫・五国
 - ① 常設展示
ひょうご五国の基本情報（人口、面積、地理、地場産業、特産物ほか）
 - ② 企画展示（年数回の展示替、県内市町博物館等の持込企画展も活用）
 - ・兵庫県の多様性を比較展示（気候、人、食、建築、町並み、素材、産業等）
 - ・ひょうご五国の歴史トピックス（海運物流史、近代産業史等）

4 施設計画（案）

(1) 施設の整備方針

- ア 兵庫津の歴史資源の中核としての利用、小学生の社会科見学を想定した施設整備
- イ 隣接する初代県庁復元施設との連携、来館者の効率的な動線に配慮した建物配置
- ウ 大型商業施設等の利用者、兵庫津を訪れる様々な人々の視点に立った利用しやすい施設整備

(2) 施設の概要

- ア 敷地面積：約3, 500㎡[神戸市から無償貸付予定]
- イ 施設規模：延床面積 約3, 400㎡
- ウ 構造：地上3階建（防火地域のため耐火建築物）
- エ 施設内容

部 門	諸室名等
展示部門	常設展示室、企画展示室、展示準備室、収蔵庫、荷解場
体験学習部門	多目的ホール、研修室、資料室、インフォメーション、来館者用トイレ等
管理部門	事務室、応接室、ボランティア控室、ミュージアムショップ等

	<p>5 事業費 総事業費 約 25 億円</p> <table border="0" style="margin-left: 40px;"> <tr> <td style="font-size: 3em; vertical-align: middle;">{</td> <td style="padding-left: 10px;">設計監理費</td> <td style="padding-left: 20px;">約 1 億円</td> <td rowspan="3" style="font-size: 3em; vertical-align: middle;">}</td> </tr> <tr> <td></td> <td>建築工事費</td> <td>約 17 億円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>展示製作費</td> <td>約 7 億円 (展示設計費含む)</td> </tr> </table> <p>6 管理運営の考え方</p> <p>(1) 基本方針 長期的な視野にたった展示・情報発信事業、利用者満足度の高いガイダンス事業及び体験・学習事業の展開を可能とし、集客施設としての持続性を有する施設運営を行う。 このため、民間のノウハウを活かした効率的な管理運営を行うとともに、県立博物館や市町・民間博物館をはじめ、地場産業・伝統芸能にかかる県内団体、兵庫津地域の関係者・関係機関等との連携・協働を前提とした事業運営を行う。</p> <p>(2) 運営方式</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学術的な知見に裏打ちされた企画力、集客力の持続を可能にする施設の位置づけを今後検討 ・県立民営方式など効率的な運営方式を今後検討 ・施設維持管理業務、ミュージアムショップの運営等については、外部委託や施設貸しを想定 ・他の博物館等による企画展示の持込開催、県内各地の団体等による体験教室の出張開催等に向けたネットワーク構築 <p>(3) 来館見込者数 神戸市兵庫区・長田区の観光入込客数や小学生の社会科見学（県庁）数を考慮し、年間約 13 万人の来館者数を見込む。</p>	{	設計監理費	約 1 億円	}		建築工事費	約 17 億円		展示製作費	約 7 億円 (展示設計費含む)
{	設計監理費	約 1 億円	}								
	建築工事費	約 17 億円									
	展示製作費	約 7 億円 (展示設計費含む)									
<p>事業スケジュール</p>	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;">2018年度</td> <td>基本計画</td> </tr> <tr> <td>2019～2020年度</td> <td>建物及び展示物の基本設計・実施設計</td> </tr> <tr> <td>2020～2021年度</td> <td>建築工事、展示制作</td> </tr> <tr> <td>2022年度</td> <td>外構工事、開館</td> </tr> </table>	2018年度	基本計画	2019～2020年度	建物及び展示物の基本設計・実施設計	2020～2021年度	建築工事、展示制作	2022年度	外構工事、開館		
2018年度	基本計画										
2019～2020年度	建物及び展示物の基本設計・実施設計										
2020～2021年度	建築工事、展示制作										
2022年度	外構工事、開館										

2 基準に基づく評価

項 目	説 明																																																				
必 要 性	<p>1 兵庫ファンを増やす取組、ふるさと意識を醸成する取組の必要性</p> <p>本県の人口は平成21年11月をピークに減少し、県外からの転入よりも県外への転出が多い、転出超過の状況が続いている。</p> <p>雇用創出や起業支援、空き屋活用、子育て環境の整備など県外からの移住、県内定着を目指した地域創生の取組を総合的に推進しているが、その前提として、兵庫ファンを増やす取組や、県民へのふるさと意識を醸成する取組が必要である。</p> <p>【兵庫県の転出入の状況（人）】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>2010年</th> <th>2011年</th> <th>2012年</th> <th>2013年</th> <th>2014年</th> <th>2015年</th> <th>2016年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>転入(A)</td> <td>90,632</td> <td>93,085</td> <td>90,850</td> <td>88,382</td> <td>86,390</td> <td>87,946</td> <td>85,933</td> </tr> <tr> <td>転出(B)</td> <td>93,275</td> <td>91,851</td> <td>92,145</td> <td>93,596</td> <td>93,482</td> <td>95,355</td> <td>92,693</td> </tr> <tr> <td>転入超過(A-B)</td> <td>▲ 2,643</td> <td>1,234</td> <td>▲ 1,295</td> <td>▲ 5,214</td> <td>▲ 7,092</td> <td>▲ 7,409</td> <td>▲ 6,760</td> </tr> </tbody> </table> <p>※総務省「住民基本台帳人口移動報告」</p> <p>2 拡大するインバウンドへの対応</p> <p>日本への訪日外客数は年々増加しているが、平成29年の本県の外国人延べ宿泊者数は113万人泊と隣県大阪府（1,078万人泊）の10分の1程度に留まっており、兵庫県の魅力を効果的に発信し、インバウンドの増加を図ることが求められている。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>訪日外客数</th> <th>2015年</th> <th>2016年</th> <th>2017年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全国</td> <td>1,973万人</td> <td>2,404万人</td> <td>2,869万人</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>外国人延宿泊者数</th> <th>2015年</th> <th>2016年</th> <th>2017年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>兵庫県</td> <td>112万人</td> <td>104万人</td> <td>113万人</td> </tr> <tr> <td>大阪府</td> <td>865万人</td> <td>980万人</td> <td>1,078人</td> </tr> </tbody> </table> <p>3 兵庫津地域の地域活性化</p> <p>兵庫津地域は「平清盛による福原遷都」「大輪田泊」「兵庫津」「湊川の戦い」「北前船」など、歴史の大きな出来事にたびたび登場した県の主要地であるにもかかわらず、近年は人口減少が進み、県の歴史遺産が数多くあるにもかかわらず、それを生かしてきれていない。これらの遺産を活用した地域活性化の取組が求められている。</p> <p>4 貴重な歴史資料の保存と活用</p> <p>戦災・震災により、貴重な歴史的資料が焼失しているが、個人の住宅や公民館、自治体立の図書館、博物館、資料館等に未活用の歴史的資料が残存している可能性がある。</p> <p>これらの資料を収集し、保存・活用できる場所が必要である。</p>	区分	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	転入(A)	90,632	93,085	90,850	88,382	86,390	87,946	85,933	転出(B)	93,275	91,851	92,145	93,596	93,482	95,355	92,693	転入超過(A-B)	▲ 2,643	1,234	▲ 1,295	▲ 5,214	▲ 7,092	▲ 7,409	▲ 6,760	訪日外客数	2015年	2016年	2017年	全国	1,973万人	2,404万人	2,869万人	外国人延宿泊者数	2015年	2016年	2017年	兵庫県	112万人	104万人	113万人	大阪府	865万人	980万人	1,078人
区分	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年																																														
転入(A)	90,632	93,085	90,850	88,382	86,390	87,946	85,933																																														
転出(B)	93,275	91,851	92,145	93,596	93,482	95,355	92,693																																														
転入超過(A-B)	▲ 2,643	1,234	▲ 1,295	▲ 5,214	▲ 7,092	▲ 7,409	▲ 6,760																																														
訪日外客数	2015年	2016年	2017年																																																		
全国	1,973万人	2,404万人	2,869万人																																																		
外国人延宿泊者数	2015年	2016年	2017年																																																		
兵庫県	112万人	104万人	113万人																																																		
大阪府	865万人	980万人	1,078人																																																		
有効性・効率性	<p>(有効性)</p> <p>1 兵庫ファンや交流人口の増加</p> <p>千年も続いた湊町は世界的にも非常に稀であり、兵庫津には長い年月の間に積み重ねられた歴史があるが、戦争や震災の影響で現存している文化財や史料が少なく、この地域の歴史・文化を十分にいかしきれていない。</p> <p>初代県庁復元施設に隣接して当該施設を整備し、事業活動を行うことにより、兵庫津を核とした兵庫県の魅力を効果的に発信し、兵庫ファンを増やすことができる。</p> <p>併せて、兵庫県内各地への交流人口の増加が期待できる。</p> <p>2 ふるさと意識の醸成と若者のUターン促進等</p> <p>小中学生等が、ストーリー化した展示物や五感で体感できる展示物によって、兵庫県の成</p>																																																				

立ちを学び、自分が生まれ育った地域だけでなくひょうご・五国の歴史・文化・産業への関心を高め、理解を深めていくことにより、ふるさとへの愛着やふるさとを誇りに思う気持ちが育まれることが期待できる。

本県では、就職を機に県外に転出する若者が多いが、一方で大学卒業後3年以内に離職する者が厚生労働省の調査では3割となっていることから、移住支援や就職・起業支援の取組とあわせて、ふるさと意識醸成の取組を行うことにより、若者のUターンの促進が期待できる。

【最近3カ年の転出入の年代別状況（兵庫県・日本人）】

区分	総数	10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
2012年	▲ 1,295	744	283	▲ 2,563	48	147	20	27
2013年	▲ 5,214	501	▲ 4	▲ 4,241	▲ 694	▲ 403	▲ 137	▲ 236
2014年	▲ 7,092	89	▲ 57	▲ 4,940	▲ 981	▲ 485	▲ 339	▲ 380

※総務省「住民基本台帳人口移動報告」

3 県内の地域活性化の取組推進

単なる日本史を学ぶのではなく、自分が暮らす地域、自分が働いている地域である兵庫県の歴史や五国の特色、魅力をわかりやすく学べる場を提供することにより、その特色や魅力を後世に引き継ぐ意欲が沸き、地域活性化に向けた県民主体の取組が活発化することが期待できる。

4 兵庫津地域の地域活性化の取組継続

歴史探訪ガイドツアーなど、兵庫津地域のまちなかに残る史跡等を地域資源とした地域活性化の取組が住民等地元関係者主体で行われており、これら地元関係者との交流の拠点として施設を整備・運営することにより、ガイド等の人材育成の促進と現在の取組の継続が期待できる。

- ・よみがえる兵庫津連絡協議会 兵庫津史跡ガイドツアー
- ・ひょうご観光ボランティアガイド 兵庫津の道（七福神コース）

5 兵庫県成立の経緯を表す歴史資料の保存・活用

兵庫津地域の古いまちなみは高度成長期の開発や戦災等により失われているが、兵庫県成立当時の写真・映像や、地図・手紙等の歴史的文書が、公民館や個人住宅等に点在している可能性がある。兵庫津地域の歴史的拠点施設として整備・運営することにより、兵庫県の成立等にかかわる貴重な資料が発見、活用されることが期待できる。

(効率性)

1 周辺商業施設、地元関係者等との連携による効率化

周辺商業施設や地元関係者等と連携した施設運営により、商業施設の駐車場の利用や集客イベント等にかかる協働実施等が期待できることから、運営面の効率化が図られる。

2 関係機関・関係団体等との協働による施設運営

地元関係者、地元企業をはじめ、県内博物館や地場産業関係団体など幅広い関係者との協働による施設運営を検討している。

環境適合性

1 整備場所の状況

既にインフラが整備されている神戸中央卸売市場本場跡地を活用するため、新たに大規模な開発や造成を行う必要がなく、自然環境へ与える影響が少ない。

2 公共交通機関の利用

地下鉄駅からの導線を考慮するとともに、必要最小限の駐車場整備により、公共交通機関利用による施設の活用を促進する。

	<p>3 環境創生システムの導入</p> <p>施工に際しては環境創生システムによる効果の高い環境創生技術の導入を図り、建物の周辺の緑化をはじめ、ソーラーシステムや井戸水・雨水の利用等にも可能な限り取り組み、環境に配慮したものとするとともに、建物のデザインや色調も、周辺の景観に適合したものとすることにより、周辺の環境を阻害しないよう配慮した整備を図る。</p> <p>※環境創生システム：県が事業主体となり直接発注する総事業費1億円以上の事業について、事業費の一部を環境創生措置（環境の保全と創造に資する取組）のために充てる制度</p>
優先性	<p>1 初代県庁復元施設整備との相乗効果の発現</p> <p>県政150周年の記念事業に位置づけられた初代県庁復元施設の整備から期間を空けない整備を行うことにより、双方の施設の事業目的の実現がより効率的・効果的に図られる。</p> <p>2 地域活性化の担い手等人材育成</p> <p>兵庫津地域の地域活性化の取組が継続されるよう、歴史探訪ツアーガイド等の高齢化等に対応し、後継者の育成等が図られる。</p> <p>3 地元ニーズへの対応</p> <p>地元自治会等からも、早期整備の要望が寄せられている。</p>